

緑化木情報



第51回愛知県緑化樹木共進会「農林水産大臣賞」オリーブ

目次

県内の緑化木生産状況 1
緑化工事における緑化木需要状況 2
植木センター情報（市場調査） 4
〃（調査研究） 6
第51回愛知県緑化樹木共進会 10

県内の緑化木生産状況

愛知県では、1970年（昭和45年）以来県内の緑化木生産状況を調査しています。
2023年実施の調査結果の概要は次のとおりです。

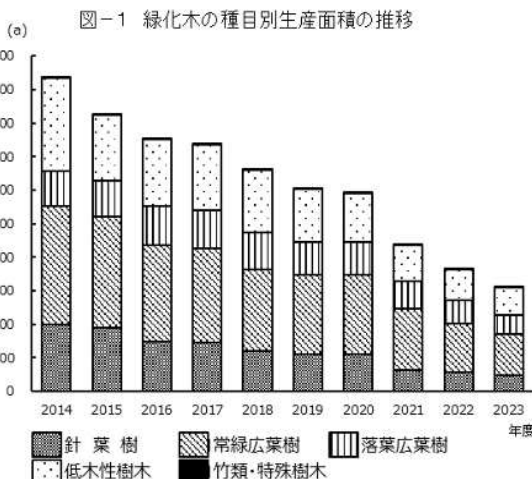
1 調査方法等

調査対象期間を2022年10月1日から2023年9月30日までとして、県内の緑化木生産者を対象に調査員による聞き取り等を実施しました。

2 生産面積（図-1）

2023年9月30日現在の緑化木の生産面積は15,535.5 a で、対前年比14.8%の減少です。2014年度に比べ31,318.6 a、66.8%減少しています。

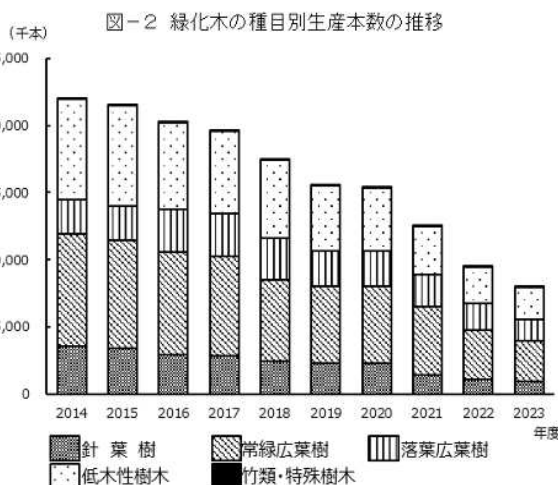
種目別では常緑広葉樹、低木性樹木、落葉広葉樹、針葉樹の順になっています。



3 生産本数（図-2）

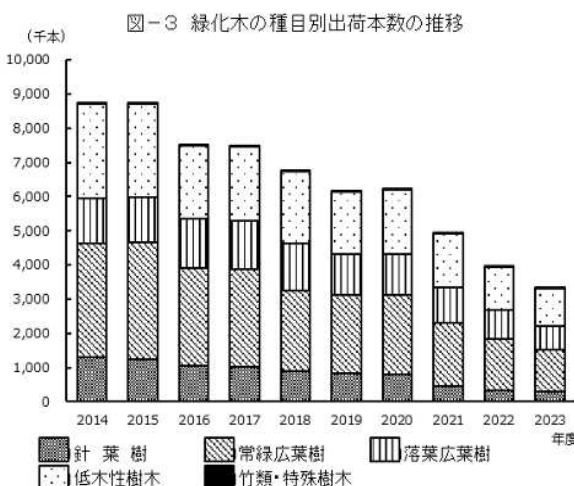
2023年9月30日現在の緑化木の生産本数は7,971.5千本で、対前年比16.3%の減少です。2014年度に比べ14,018.1千本、63.7%の減少となっています。

種目別では常緑広葉樹、低木性樹木、落葉広葉樹、針葉樹の順になっています。



4 出荷本数（図-3）

2022年10月1日から2023年9月30日までの緑化木の出荷本数は3,303.3千本で、対前年比16.1%の減少で、2014年度に比べ5,427.0千本、62.2%の減少となっています。



5 生産者数（表-1）

2023年9月30日現在の緑化木の生産者数は、989戸で、対前年比9.3%の減少、2014年度に比べ53.0%の減少です。

事業体別では農業生産者が98.5%を占めています。また、50 a 未満の生産者が84.0%を占めています。

6 事業体別生産面積（表-1）

2023年9月30日現在、緑化木の生産面積の94.5%を農業生産者が占めています。

表-1 緑化木の生産面積規模による事業者別調査結果

区分 事業者		緑化木の生産面積規模による区分										合計	
		10a未満		10a以上 20a未満		20a以上 50a未満		50a以上 100a未満		100a以上			
		生産 者数	生産 面積	生産 者数	生産 面積	生産 者数	生産 面積	生産 者数	生産 面積	生産 者数	生産 面積		
農業生産者		戸 353	a 719.7	戸 299	a 2,978.7	戸 169	a 3,173.6	戸 126	a 5,255.6	戸 27	a 2,557.4	戸 974	a 14,685.0
農 業 者 以 外	会社	6	12.2	3	36.8	0	0.0	2	151.5	2	420.0	13	620.5
	組合	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	地方公 共団体	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	その他	0	0.0	0	0.0	1	20.0	1	210.0	0	0.0	2	230.0
	小計	6	12.2	3	36.8	1	20.0	3	361.5	2	420.0	15	850.5
合計		359	731.9	302	3,015.5	170	3,193.6	129	5,617.1	29	2,977.4	989	15,535.5

◆ 需要動向調査結果 ◆

緑化工事における緑化木（グラウンドカバーを含む）需要状況

愛知県では、1973年（昭和48年）から県内の緑化（造園）工事業者を対象に、緑化工事に使用した緑化木の仕入れ方法、用途などについて、毎年調査を実施しています。

2023年度調査の結果の概要は次のとおりです。

1 調査対象業者数等

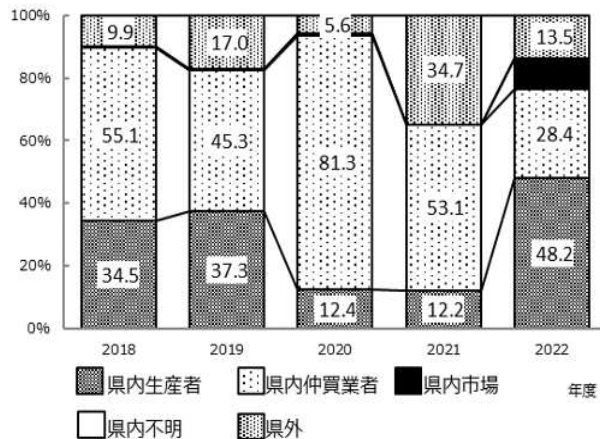
調査対象期間は2022年4月1日から2023年3月31日であり、県内の造園業者50者から回答を得て、集計しました。

2 緑化木の仕入内容（図-4）

仕入本数を県内と県外からに分けてみると、県内：県外＝87：13の比となっており、県内仕入れの割合が高くなっています。

仕入れ先別で最も多かったのは県内生産業者で48.2%、次いで県内仲買業者28.4%です。

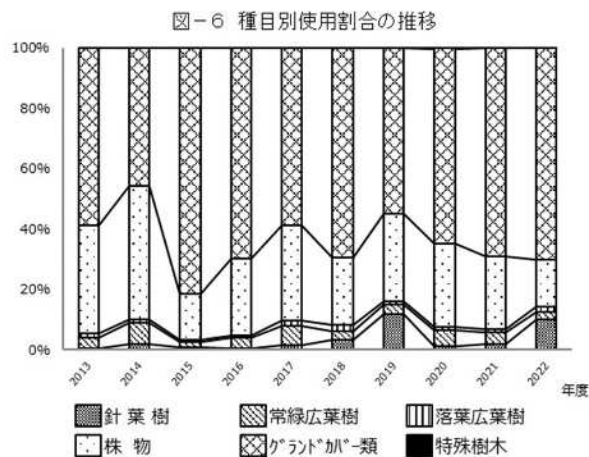
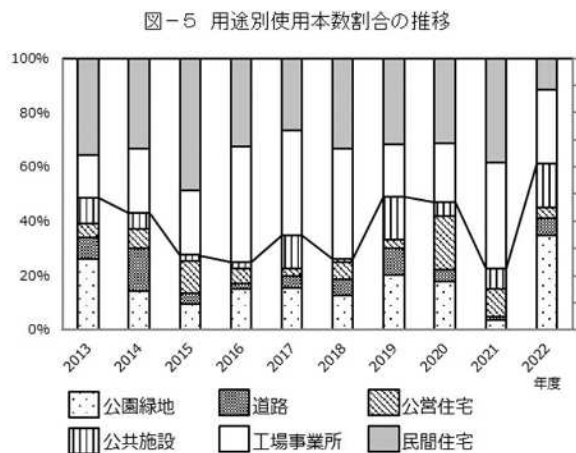
図-4 仕入先別の仕入割合の推移



3 県内緑化工事における緑化木の使用状況（図-5, 6）

県内の緑化工事における使用本数を公共工事と民間工事の使用本数の割合でみると公共工事：民間工事＝61：39となっています（図-5）。

種目別では「グランドカバー類」と「株物」が、それぞれ70.2%、15.7%となっており、この2種目で全体の85.9%を占めています（図-6）。



4 県内緑化工事における主な樹種の使用状況（表-2）

2022年度の使用本数割合は表-2のとおりであり、上位5樹種で全体の48.6%を占めています。

表2 樹種別の使用本数割合の推移

単位：%

年度 順位	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
1	ジャリゲ類 15.6	ツツジ類 16.0	ジャリゲ類 47.3	ジャリゲ類 23.0	ジャリゲ類 10.9	ジャリゲ類 19.9	ヤブラン類 14.7	ジャリゲ類 19.5	ジャリゲ類 13.3	ヒベリカム類 17.8
2	ツツジ類 10.7	ジャリゲ類 15.1	ササ類 8.0	ツツジ類 8.9	ツツジ類 9.0	シバザクラ 14.5	ジャリゲ類 14.3	ツツジ類 8.0	ヤブラン類 9.1	ヘデラ類 10.8
3	シバザクラ 9.6	シバザクラ 6.3	ヤブラン類 7.7	ヘデラ類 7.9	ヘデラ類 6.3	ツツジ類 7.4	クロマツ 11.0	ヒベリカム類 7.6	ササ類 9.0	ジャリゲ類 8.9
4	ヒベリカム類 6.4	ヒベリカム類 5.6	ツツジ類 6.0	ヤブラン類 6.7	ヤブラン類 6.1	ヤブラン類 6.6	ツツジ類 9.7	シバザクラ 6.1	ツツジ類 7.2	ヤブラン類 5.9
5	サツキ 4.9	ヤブラン類 4.5	シバザクラ 5.2	ヒベリカム類 3.9	サツキ 4.9	フッキソウ 3.5	フッキソウ 5.2	ヤブラン類 5.5	シバザクラ 5.9	ツツジ類 5.2
6	シャリンバイ 4.5	シャリンバイ 4.4	フッキソウ 3.3	ササ類 3.8	シバザクラ 4.5	シャリンバイ 3.5	シャリンバイ 3.6	クチナシ類 3.4	フッキソウ 4.6	フッキソウ 2.8
7	ヤブラン類 4.1	ボックスウッド 4.4	サツキ 1.7	サツキ 2.6	ヒベリカム類 4.0	ヘデラ類 3.2	ヘデラ類 2.8	ボックスウッド 2.7	サツキ 4.5	シバザクラ 1.4
8	アベリア 2.6	ユキヤナギ 2.4	シャリンバイ 1.6	シバザクラ 2.0	アベリア 2.3	ササ類 2.6	アベリア 2.5	ササ類 2.3	ヘデラ類 3.7	ボックスウッド 1.4
9	ヘデラ類 2.5	サツキ 2.0	ヘデラ類 1.6	シャリンバイ 1.4	ボックスウッド 1.9	アベリア 2.4	サツキ 2.0	サツキ 1.9	アベリア 2.3	ユキヤナギ 1.3
10	ササ類 2.5	ヘデラ類 2.0	ヒベリカム類 1.5	ツツジ類 0.8	ササ類 1.8	クロマツ 2.1	クチナシ類 1.9	ヘデラ類 1.9	ボックスウッド 1.5	アベリア 1.1
上位10種 の割合	63.4	62.7	83.9	61.0	51.7	65.7	67.7	58.9	61.1	56.6

※網掛けはグランドカバー類

県内植木市場における取引動向

愛知県植木センターでは、1986年から県内の植木市場（井堀・矢合・福地〔現在は廃止〕）において、主に地元から出荷される緑化木を中心に現在31品目（一般植木、株・玉物、生垣用樹）の取引量を春期（2月～4月）と秋期（10月～11月）に調査しております。

今回は、2023年春期・秋期の取引量の概要を紹介します。

I 春期

1 全体取引量〔図－1〕

今期の全体取引量は約12.6万本で、前年同期（約14.9万本）から減少し、前年同期比は約85%となりました。全体取引量は2010年以降減少傾向が続き、2016・2017年にはわずかな増加に転じたものの、再び減少傾向となり、今期も減少しました。

2 用途別の取引動向

一般植木の取引量は約2.9万本で、前年同期（約2.7万本）より約0.1万本増加しました。自然形ではカエデ類が多く、続いてシマトネリコ、ヤマボウシ、キンモクセイで昨年から減少しました。仕立物ではイヌマキが増加しましたがイヌツゲが低調のままで、全体では減少傾向でした。

株・玉物の取引量は約8.0万本で、前年同期（約9.9万本）より約1.9万本減少しました。主要樹種はサツキで、ツツジ類、ドウダンツツジが続いています。生垣用樹は約1.8万本で、前年同期（約2.3万本）より約0.5万本減少しました。取引量の多い品目は、サザンカとイヌマキで、両種で生垣用樹の約93%を占め、今期はイヌマキとマサキが減少し、全体量を押し下げました。

3 取引量上位の動き〔表－1〕

調査対象の取引量の上位10品目では、従来からサツキとツツジ類が上位を占めてします。今期は、カエデ類が増加して順位を上げ、一方、オタフクナンテンとシマトネリコが減少し、順位を下げました。

II 秋期

1 全体取引量〔図－2〕

今期の全体取引量は約6.6万本で、前年同期（約8.3万本）より約1.7万本減少しました。全体取引量は2008年以降減少傾向の波があるものの継続しており、今期の取引量は2008年に比べると約25%まで減少しました。

2 用途別の取引動向

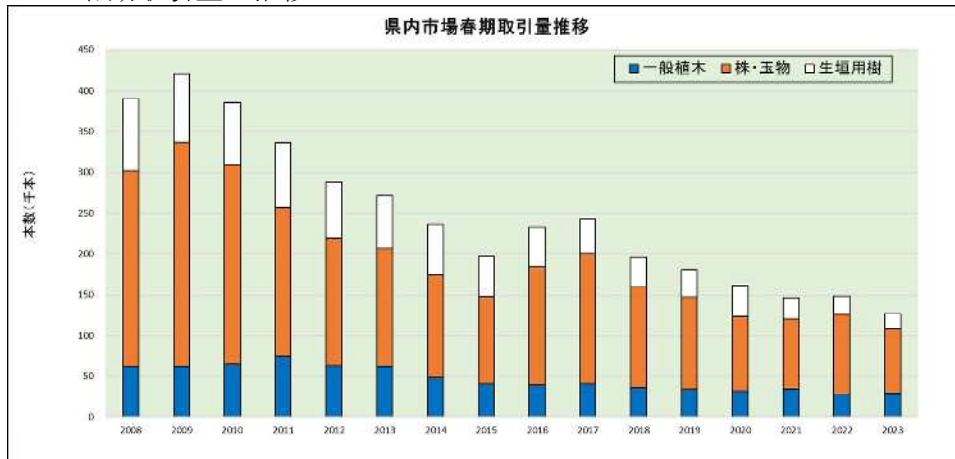
一般植木（自然形・仕立物）の取引量は約2.5万本で、前年同期（約2.4万本）と若干増えました。自然形では、キンモクセイ、カエデ類が多く、シマトネリコは減少しました。仕立物では、イヌマキが増加したものの、イヌツゲ、クロマツの取引数量は低調のままです。

株・玉物の取引量は約2.7万本で、前年同期（約4.4万本）よりほぼ半減しました。株・玉物の大半を占めるサツキ、ツツジ類、イヌツゲがともに大幅に減少しました。生垣用樹の取引量は約1.4万本で、前年同期（約1.5万本）より約0.1万本減少しました。生垣の主要樹種であるサザンカは減少傾向でイヌマキ、マサキは若干増加しました。

3 取引量上位の動き〔表－2〕

調査対象の取引量の上位10品目では、オタフクナンテン、サザンカ、サツキが依然として上位を占めており、キンモクセイ、カエデ類が続いています。近年、取引量が多かったサツキ、ツツジ類が減少傾向にあり、それに代わる突出した樹種が少なく、全体に樹種が平均化（多様化）している傾向が見られます。

図－1 春期取引量の推移

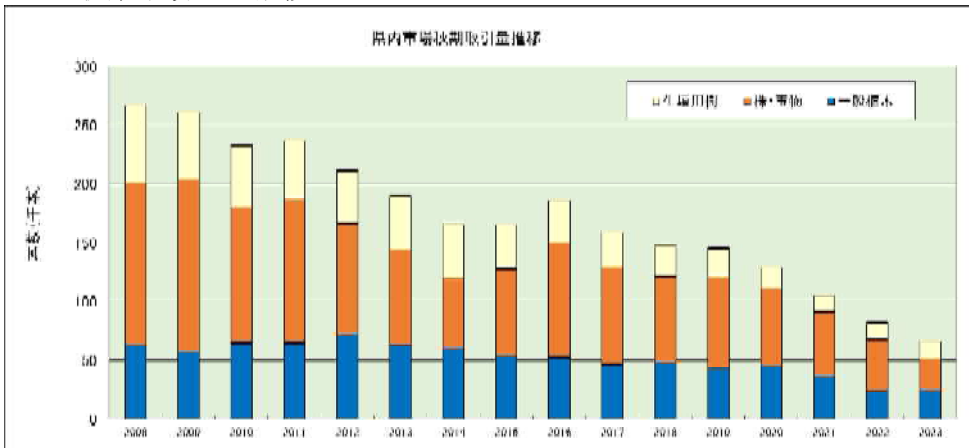


表－1 春期取引量上位10品目の動き

順位	2021			2022			2023		
	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比
1	サツキ	株	...	サツキ	株	...	サツキ	株	...
2	ツツジ類	株	↑	ツツジ類	株	↗	ツツジ類	株	↘
3	シマトネリコ	一	...	オタフクナンテン	株	↗	サザンカ	生	...
4	オタフクナンテン	株	...	サザンカ	生	...	カエデ類	一	...
5	サザンカ	生	↓	シマトネリコ	一	...	ドウダンツツジ	株	...
6	カエデ類	一	...	ドウダンツツジ	株	↗	オタフクナンテン	株	↘
7	ドウダンツツジ	株	...	イヌツゲ	株	↗	イヌツゲ	株	...
8	イヌツゲ	株	↘	カエデ類	一	...	シマトネリコ	一	↓
9	ハナミズキ	一	...	ツバキ	一	...	ヤマホウシ	一	...
10	イヌマキ	生	...	ヤマホウシ	一	...	キンモクセイ	一	↑

前期比 ... : ±20%未満 ↗ : +20%以上40%未満 ↘ : -20%以上40%未満
 ↑ : +40%以上 ↓ : -40%以上 — : データなし
 区分 一 : 一般植木 株 : 株・玉物 生 : 生垣用樹

図－2 秋期取引量の推移



表－2 秋期取引量上位10品目の動き

順位	2021			2022			2023		
	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比
1	オタフクナンテン	株	↓	サツキ	株	...	オタフクナンテン	株	...
2	サツキ	株	↘	オタフクナンテン	株	↘	サザンカ	生	...
3	ツツジ類	株	↑	サザンカ	生	...	サツキ	株	↓
4	シマトネリコ	一	↘	ツツジ類	株	...	キンモクセイ	一	...
5	サザンカ	生	...	キンモクセイ	一	...	カエデ類	一	...
6	ドウダンツツジ	株	↑	イヌツゲ	株	↑	ヤマホウシ	一	↑
7	キンモクセイ	一	...	カエデ類	一	...	ツツジ類	株	↓
8	ヤマホウシ	一	...	シマトネリコ	一	↓	イヌツゲ	株	↘
9	カエデ類	一	...	ドウダンツツジ	株	↓	イヌマキ	生	↗
10	ソヨゴ	一	↓	イヌマキ	生	...	シマトネリコ	一	↘

前期比 ... : ±20%未満 ↗ : +20%以上40%未満 ↘ : -20%以上40%未満
 ↑ : +40%以上 ↓ : -40%以上 — : データなし
 区分 一 : 一般植木 株 : 株・玉物 生 : 生垣用樹

愛知県植木センターでは、植木生産の効率化、技術の向上などを図るため、調査研究を行っており、令和5年度は次の3課題に取り組みました。

- ・ポット生産におけるルーピングの軽減についての調査（R3～R5）
- ・緑化木に発生する病害虫の実態についての調査（R4～R6）
- ・高齢化・大木化した緑化木の問題点と管理方法について（R5～R7）

ここでは、令和5年度に終了した成果の概要を紹介します。

ポット生産におけるルーピングの軽減についての調査

調査期間：令和3年度～令和5年度

1 調査目的

緑化用樹木は、ポットで生産する場合、ルーピング（根がポットの内面に沿って伸長し、とぐろを巻いたようになる現象）を起こすと、定植後の初期成長が抑えられ、生育不良となることがあるため、健全な生育を促進するためには、ルーピングを軽減して細根を発達させることが大切である。

そこで、根の生長に少なからず影響を及ぼすと考えられるポットの水抜き穴に着目し、水抜き穴の数量や配置、形状などが異なるポットを使用して苗木を育成し、根の生長との関連を調査した。

また、ポットの色により光の透過率が異なり、根の生長に影響を及ぼすことが考えられるので、併せて関連を調査した。

2 調査方法

（1）調査条件の設定

緑化木生産によく使われるポリエチレン製の柔らかいポットで、水抜き穴の配置、形状により3タイプ、また、それぞれの形状について光の透過率の違いにより黒と半透明のポットで比較した。対照区としては、同程度の大きさのやや丈夫なポリプロピレン製の側面に多数の水抜き穴のあるものを併せて、次の7調査区を設けた。

調査区 ① 素材：PE（ポリエチレン）、サイズ：12.0cm 色：黒、半透明

A（黒）、D（半透明）：底部の中心に1穴

B（黒）、E（半透明）：底部の中心に1穴＋角に4穴

C（黒）、F（半透明）：底部の中心に1穴＋側面に8スリット

対照区 ② 素材：PP（ポリプロピレン）、サイズ：DF4.5（約13cm）、色：黒

G 側面に多数のスリット及び底部に多数の細かな角穴



写真1 <7種類の使用ポット>

手前（黒）・奥（半透明）ともに左から

A, D（底部の中心に1穴）

B, E（底部の中心に1穴＋角に4穴）

C, F（底部の中心に1穴＋側面に8スリット）

右端

G（側面及び底面に多数のスリット、角穴）

(2) 調査対象樹種の選定

この地域でポット生産されており、ルーピングを起こしやすい下記の7樹種を対象とします。調査区は11本（1ケース）×6タイプ、対照区は8本（1ケース）

a型：主根が細長く、側根がやや長いもの	ラカンマキ
b型：主根が太く、側根がきわめて短いもの	サザンカ、キンメツゲ、ヒメシャラ
c型：主根が短く、側根が長いもの	レッドロビン、イロハモミジ
さし木苗：主根と側根の区別がない	アオキ 稚苗の根系型別（「樹木根系図説」から類推）

(3) 調査方法

① 地上部の生育状況

- ・苗木高、根元径を定期的に計測（4月、7月、9月、11月、2月ごろ）
苗木高（h）：メジャーを用い1cm単位で測定
根元径（d）：ノギスを用い0.1mm単位で測定
生長量（v）：暫定計算式（※根元径dの二乗×苗木高h）で比較（cm³）

② 根系の発達状況

- ・ルーピングの発生状況を確認（2021年11月、2022年11月、2023年11月）
2021、2022年11月：ポットを外し、目視で根の状況を全数確認、写真撮影
2023年11月：ポットを外し、目視で根の状況を全数確認、写真撮影
土を洗いルーピング状況を全数写真撮影

・判断の基準

根生育は根鉢の土に対しての状況を6段階で判断

0（枯れ）、1（不良）、2（やや不良）、3（良）、4（やや優良）、5（優良）

ルーピングは根鉢に対して周り状況（0～-5）を6段階で判断

0（無し）、-1（ルーピングがほとんど無し）、-2（ルーピングし始め）、

-3（一部の根がルーピング）、-4（ルーピングが一周）、-5（ルーピングが激しい）

総合評価は植栽への影響、商品性を（評価A～C⁺）を6段階で判断

調査状況写真



写真2 根鉢にあう板で根茎を崩さないようにポットを外す



写真3 根の状況を目視で確認



写真4 撮影背景



写真5 根鉢を逆さにして根の状況を写真撮影



写真6 根鉢の水洗い



写真7 洗い根の状況を全体撮影

調査結果写真

ルーピング状況(根の状況)

レッドロビン

調査区A (黒1穴)



	2021	2022	2023
高さ(cm)	70.1	88.7	101.5

調査区B (黒1穴+4穴)



	2021	2022	2023
高さ(cm)	71.7	91.5	103.6
根本径(mm)	8.1	9.9	10.7

調査区C (黒1穴+8スリット)



	2021	2022	2023
高さ(cm)	73.9	91.6	103.5
根本径(mm)	7.7	9.7	10.1

調査区G (黒PPスリット)



	2021	2022	2023
高さ(cm)	72.4	99.9	116.4
根本径(mm)	8.1	10.1	10.2

※抜粋

調査区D (半透明1穴)



	2021	2022	2023
高さ(cm)	69.4	91.5	107.3

調査区E (半透明1穴+4穴)



	2021	2022	2023
高さ(cm)	72.5	95.5	111.5
根本径(mm)	8.0	9.6	9.9

調査区F (半透明1穴+8スリット)



	2021	2022	2023
高さ(cm)	70.0	91.2	105.0
根本径(mm)	7.9	10.3	10.6

結果

ルーピング：黒>半透明>黒PP

生長：黒PP>半透明>黒1穴・・・

根生長：黒>黒PP>半透明

評価：黒PP>黒スリット>黒1穴=黒1穴+4穴
黒PP>半透明>黒

(個別の判断評価は省略した)

c ルーピング状況(水洗い後の状況)(2023.11)

※状況写真抜粋



ラカンマキ (a型)



サザンカ (b型)



キンメツゲ (b型)



レッドロビン (c型)



イロハモミジ (c型)



アオキ (さし木苗)



ヒメシャラ (b型、枯死が多かった)

3 調査結果及び考察

調査した7樹種の地上部の生育状況は、ポットの種類(水抜き穴の配置等)やポットの色には、初期の段階では影響しないことが判明した。

一方、根系の生育状況は、樹種により根の生育が異なる。ラカンマキ(a型)は、ポット沿いに全体網状にからまる傾向、サザンカ、キンメツゲ(b型)は、主根がやや目立ち、ポット沿いに主根がルーピングして網状にからまる傾向、レッドロビン、イロハモミジ(c型)は、側根が多く太くなり、ポット沿いにルーピングする傾向、アオキ(さし木苗)は、多数の太い根がポット沿いに周囲にぐるぐるルーピングすることが判明した。

ルーピング状況については、いずれも調査区Aがひどく、B、Cの順であった。

なお、対照区に使ったポットは、ポリエチレン製よりもルーピングに対して横方向に伸長する根が少なく良好であった。

ポットの色については、調査した7樹種のうちヒメシャラを除く6樹種は、黒いポットの方が半透明のものよりルーピングが激しくなる傾向があった。ただし、半透明の調査区にはポットの内側にコケが生えてくる傾向があり、欠点と考えられる。

以上、ポット生産におけるルーピング軽減について次のようにまとめられる。

- ・ルーピングの防止には、水抜き穴の配置が関係し、穴が一つよりも多数の穴やスリットを多く配置した方が有効である。(径12cm程度の場合)
- ・ただし、穴やスリットの形状によっては、型崩れする可能性がある。
- ・ポットを半透明にすると、初期段階ではルーピングの防止になる。
- ・半透明にするとコケが生えたり根の生長に影響がでることがある。
- ・対照区のポリプロピレン製のポットはルーピング対策には有効であるが、価格と取扱いの面で負担がかかる。

したがって、育てる樹種と費用対効果を考えて選択する必要があると考えられる。

第 5 1 回 愛 知 県 緑 化 樹 木 共 進 会

愛知県緑化樹木共進会は、愛知県と愛知県緑化木生産者団体協議会の共催により、生産技術の向上、生産及び需要拡大を目的に、昭和 48 年度から毎年開催しています。

令和 5 年度は 158 点の応募があり、県農林水産事務所での予備審査を経た 72 点について本審査を実施しました。本審査は審査員 7 名により行われ、令和 5 年 10 月 27 日の植木センターでの写真審査の後、11 月 21 日の現地審査を経て、農林水産大臣賞始め 17 賞の配賞を決定しました。

受賞者の表彰は、令和 6 年に開催される愛知県植樹祭の席上で行われます。

出品部門	出品点数	本審査
仕立物	15	9
自然形	67	23
生垣用樹	13	10
玉物・株物	4	2
コンテナ	56	26
育苗ほ場	3	2
計	158	72

農林水産大臣賞受賞作品の紹介

オリーブは常緑高木であることや、丈夫で育てやすいことから庭木やシンボルツリーとして人気があり、環境がよければ 10 メートル程度の大きさになる樹種です。

高津さんは 2002 年にスペインで古木のオリーブの素晴らしさに気づき、日本初の商業的輸入に成功しました。それから約 20 年間オリーブを栽培しており、現在は約 150 本栽培しています。

受賞作品は、地中海気候であるスペインから輸入した樹齢が 300 年近いオリーブを風土の異なる日本で活着させており、こまめな害虫対策等により枯死率が 5 パーセント以内となっていることや、肥培管理が行き届いていることから品質が良く、樹形も整っていることが高く評価されました。



〈受賞作品のオリーブと生産者の高津進一さん〉

入 賞 者 一 覧

賞 名	部 門	作 品 名	市 町	氏 名
農林水産大臣賞	仕立物	オリーブ	西尾市	高津進一
農林水産省農産局長賞	自然形	ソヨゴ	稲沢市	水野博邦
林野庁長官賞	コンテナ	ツバキ (上海)	豊田市	前田和昭
東海農政局長賞	コンテナ	フェイジョア	豊橋市	黒田時夫
中部森林管理局長賞	自然形	ユッカ・リギダ	稲沢市	近藤哲也
愛知県知事賞	生垣用樹	キンマサキ	稲沢市	荻須隆裕
愛知県議会議長賞	自然形	ハナミズキ (ステラピンク・斑入り)	稲沢市	大崎道一
愛知県緑化木生産者団体協議会会長賞	コンテナ	クロマツ	豊橋市	森田恵子
	コンテナ	ミツマタ	豊橋市	小野田眞一
	玉物・株物	アガベ (クプレアータ)	稲沢市	石田健太
	自然形	トウネズミモチ (トリカラー)	稲沢市	山田政勝
	コンテナ	ベニバナシャリンバイ	豊橋市	大木薫
	自然形	ココスヤシ	西尾市	三治勝裕
(一社)日本植木協会会長賞	自然形	フェイジョア 株立	稲沢市	橋本先司
(公社)愛知県緑化推進委員会会長賞	コンテナ	メラレウカ (ブラックティーツリー)	稲沢市	水野秀樹
愛知県経済農業協同組合連合会会長賞	生垣用樹	オリーブ	西尾市	石川明
(一社)愛知県造園建設業協会会長賞	仕立物	ラカンマキ	西尾市	松崎康孝

緑化木情報 No. 57

2024年3月発行

発行 愛知県農林基盤局
林務部森林保全課

〒460-8501

名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

電話 052-961-2111(代表)

内線 3768、3769

052-954-6453(直通)

FAX 052-954-6937